デジタルミュージアム

市内のミュージアム（博物館）

3月、にかほ市デジタルミュージアムが公開されました。デジタルミュージアムについての説明の前に、にかほ市内の博物館（ミュージアム）について紹介します。

まず、にかほ市には規模の大小、運営主体の別にかかわらず、5つのミュージアムがあります。もっとも法律が定める博物館としての要件、たとえば学芸員が常駐しているなどといった条件を満たしていませんので登録博物館とはなりませんが、ただその性質等をみれば十分に博物館の機能を果たしていることから、「博物館類似施設」に分類される施設となっています。

5館の内、市主体は「フェライト子ども科学館」、白瀬南極探検隊記念館、象潟郷土資料館」の3つで、残りの2つは民間主体の、（公財）斎藤宇一郎記念会による「斎藤宇一郎記念館」と、TDKによる「TDK歴史みらい館」になります。いずれのミュージアムもそれぞれに特徴があります。

《フェライト子ども科学館》

子どもたちに科学に親しみを覚えてもらうための体験型のミュージアム。年間3万人超の来館者。

《白瀬南極探検隊記念館》

白瀬矗の壮大な夢とロマン、仲間たちの南極にかけた人間ドラマを伝えるミュージアム。年間来館者数は約1万人。

《象潟郷土資料館》

隆起前の「象潟」のジオラマ、250年前の埋もれ木、松尾芭蕉『おくのほそ道』をはじめとした関係資料、池田修三氏の木版画作品などを展示。年間来館者数は約3千人。

《斎藤宇一郎記念館》

乾田馬耕など農業の近代化と法制化に尽力した斎藤宇一郎に関する資料や、戦国時代からにかほ市を治めた仁賀保家に関する品々を展示。

《TDK歴史みらい館》

20年前に「TDK歴史館」として整備され、10年前に「TDK歴史みらい館（TDKミュージアム）」に全面リニューアル。TDKの製品や技術が社会で果たしてきた役割と、未来社会への関わりについて映像などで学ぶことができる体験型ミュージアム。

デジタルミュージアム

デジタルミュージアムはデジタルアーカイブの整備によって実現した機能です。デジタルアーカイブとは「古文書や公文書の保管場所」を表すアーカイブにデジタルをくっつけた造語で、「古文書などを写真等でデジタル方式のデータとして蓄積・保管すること」を意味します。そして、このシステムを一般に公開し、誰でもネットで手軽に検索できるようにしたのが今回のデジタルミュージアムです。

分かりづらい説明となってしまいました。簡単に言うと、別々に存在しているそれぞれのミュージアムがオンライン上では一つにまとまり、それぞれが持つ資料を、誰でもいつでもすぐに見られるようにしたのがデジタルミュージアムとなります。来ないと見られず体験もできなかった、にかほ市の歴史や文化や科学を、自宅からパソコンやスマホで簡単に見ることができるようになったわけです。

なお、今回は完全な民間であるTDK歴史みらい館は、国の交付金要件により参加することができませんでしたが、今後はこれまでの5館連携の枠組みを使って協同していく予定です。

期待される効果

デジタルミュージアムは、子どもたちの学習教材、研究者にとっての資料検索、観光分野への応用など、多くの場面で活用することができます。また、シビックプライドの醸成にも役立つはずです。2月号コラムでも述べたように「知らなかったことを知れば自分たちの暮らす地域の価値に気付くことができる」ようになり、地元への愛着が深まっていくようになります。子どもたちのみならず大人の皆さんにも、市の自然や歴史などをあらためて知っていただきたいと思います。

ぜひデジタルミュージアムにご来館ください。もちろん入館料は無料です。

にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。